

もう一つの堀川

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 京都は1200年もの間大都市であったことから、大火や戦乱により大きな変動をたびたび受けました。しかし、平安京の大路小路の名残りがいたるところで確認できます。

京都市内を南北に走る幹線道路の一つに堀川通があります。通り名の由来となった堀川は道路の東側を流れていますが、今では暗渠化が進み、わずかに今出川通から御池通の間で水路が見られるのみです。

二つの堀川 堀川通は平安時代、堀川小路という街路でした。位置はやや西寄りになっていますが、堀川にかかる一条戻橋は、造営当時の位置をおおよそ留めています。

平安京には、もう一つの堀川小路がありました。それは、朱雀大路をはさんだ対称位置にある右京の西堀川小路です。こちらは現在の道路と重なる部分はわずかで、さらに川も北側の一部に残るだけとなり、地上からはほとんどその痕跡がわかりません。

堀川の構造 『延喜式』の「京程」に、堀川小路は「幅四丈、東西辺に各二丈加える」と記されていることから、小路といえども大路規模の八丈(約24m)の道路幅をもつことがわかります。

東西の堀川小路は、他の街路とは違った構造をしており、道路の

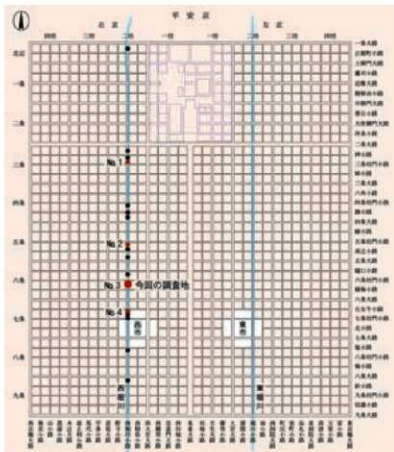


図 平安京と二つの堀川の推定位置(●は調査地点)

中央に堀川という河川が切り開かれ、その東西に路面および側溝と築地が配置されていました。また、堀川はその名が示すように、平安京の造営時に人工的に開かれた水路で、物資の運搬に利用されていたようです。

川と街路を発見 2007年3月末から西大路五条の交差点の東側で、国道の拡幅にともなう発掘調査を行ないました。調査地は、平安京右京六条二坊の六町・十一町そして、西堀川小路にあたる地点です。ここで、平安時代前期の宅地跡と

ともに、南北方向の河川・道路・道路側溝などの跡を発見しました(図・No.3)。東側溝は道路脇の排水溝で、幅約1.5m・深さは0.2mです。上部が中世に削平されており、底部のみが残っています。東側路面の幅は、約6mありました。上部が削平されたため、路面敷は残っていません。

西堀川の跡は、幅約14・16m・深さは約1.8mありました。東側部は、ほぼ推定位置で検出しましたが、西側部は西側に大きく拡がって西側路面は消失し、小路西築



今回の調査・図の№3地点（西から）



右京三条二坊十五町の調査・図の№1地点（北から）

地の推定位置付近で検出しました。下層は9～10世紀初めの遺物を含む褐色系の砂礫が堆積し、中層には12世紀の遺物を含む黒色系の泥土が厚く堆積しています。上層は褐色系の室町時代の整地層となります。中層の泥土堆積は、すでに水の流れがなく淀んでいたことを示しています。南側の川底で延喜通寶（初鑄907年）が10枚ままとって出土しました。また、六町内では、南北方向の内溝・建物・井戸・土壌などを検出しました。調査の結果、西堀川小路は宅地部分

とともに10世紀初めころに廃絶していることがわかりました。西堀川小路の検出例 これまでの発掘調査でも、西堀川小路の道路と川をそれぞれ発見しています。三条付近では、西側路面が幅6m、東側路面が2m以上、中央に幅6mの川跡（図・№1）。五条付近では、東側路面が幅6m、川幅14m以上（当初は6m）（図・№2）。七条付近では、東側路面が幅3m、川幅24m以上となり、洪水によって川は西側に大きく広がっていました（図・№4）。東側路面は、

いずれの調査でも見つかっていませんが、西側路面は三条の調査のみで発見しました。また、川は五条から南側では西に大きく拡がり、さらに、西側路面は六条より南では消失していました。

天神川（紙屋川）では、西堀川は、現在どうなっているのでしょうか。堀川と同様に、一条通付近にその姿を留めています。丸太町通りの北側では、紙屋川がこの西堀川にあたります。北野天満宮の西を南西に流れる紙屋川を、一条大路にかかる部分から南方向に付け替えて運河とし、両側に道路を付けて西堀川小路としたのです。

しかし、平安時代中期以降には、右京の荒廃にともなって西堀川は整備されなくなり、流れは途絶えて道路も断絶し、平安時代後期にはその存在はほとんど忘れ去られてしまいました。

おわりに 今回の調査では、西堀川の川底からは日常使用した土器類にまじり、ミニチュアの木製船や延喜通寶が出土しています。これらは、水辺の祭祀にともなうものと考えられます。この西堀川は、運河として開削され多くの物資を輸送しただけではなく、平安京の住民にとっては祭祀を行なう場所でもあったのでしょ。

現在、北区の市立北野中学校の東側では「堀川町」の地名が残っています。また、下京区の七条第三小学校の近くでは、以前「ほりこ川」という川が流れていたそうです。このように、西堀川は1200年後にも部分的にその痕跡を残していました。（小橋山一良）